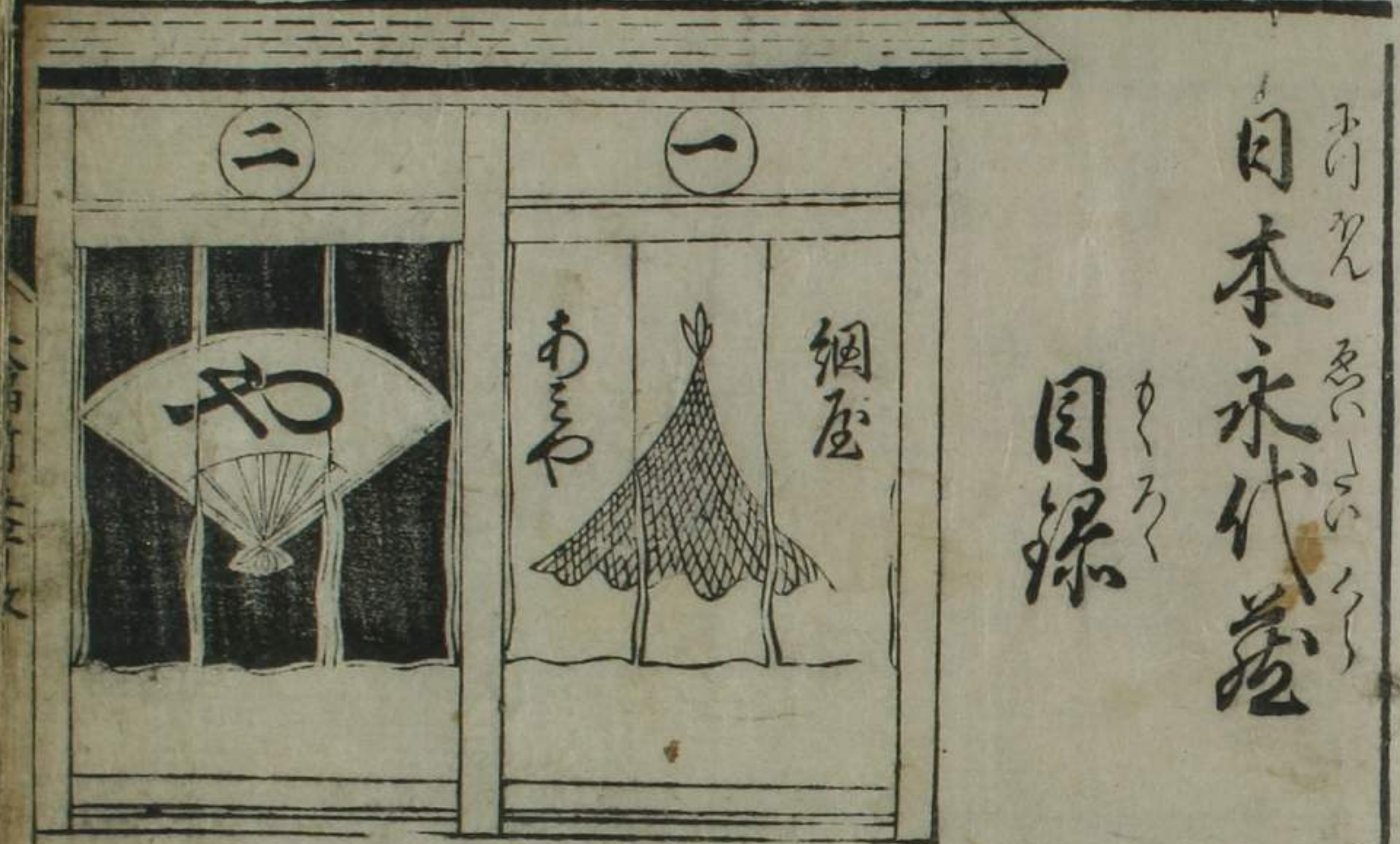


3264
1
特
17
1-5



日本永代巻

目録

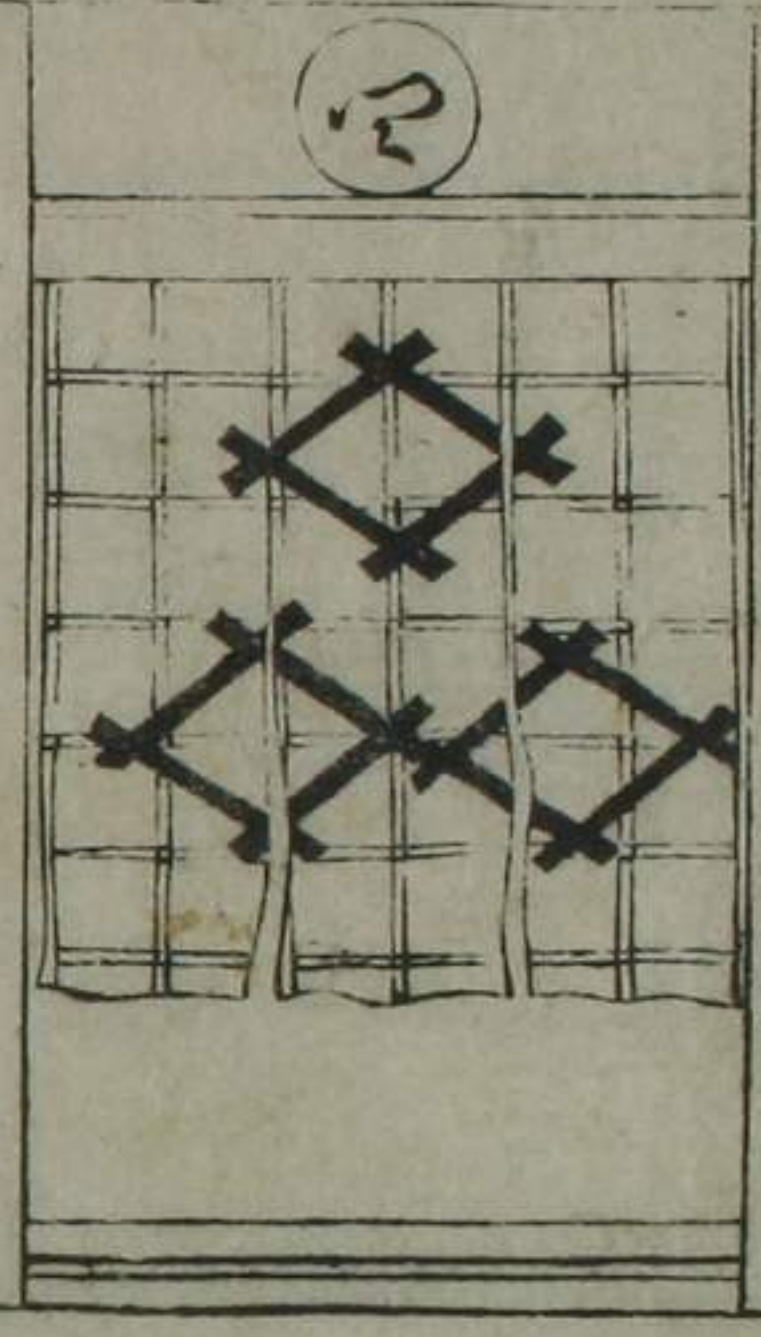


巻一

初年ハ... 泉列...

二代目... 新小...

昭和十一年
四月二十七日
購求



浪風勢小神通丸

和泉小かられおれた高人
小湊小第の神とまらる女

背の掛箕今八當座

江戸小かられおれた出カセ
を寸四方と高賣の種

世を欲乃入札小仕合

南都小かられおれた松屋の旗式
後家小女の燈とあつ高

本朝永代産出之一

物年ハ新くく内仕合

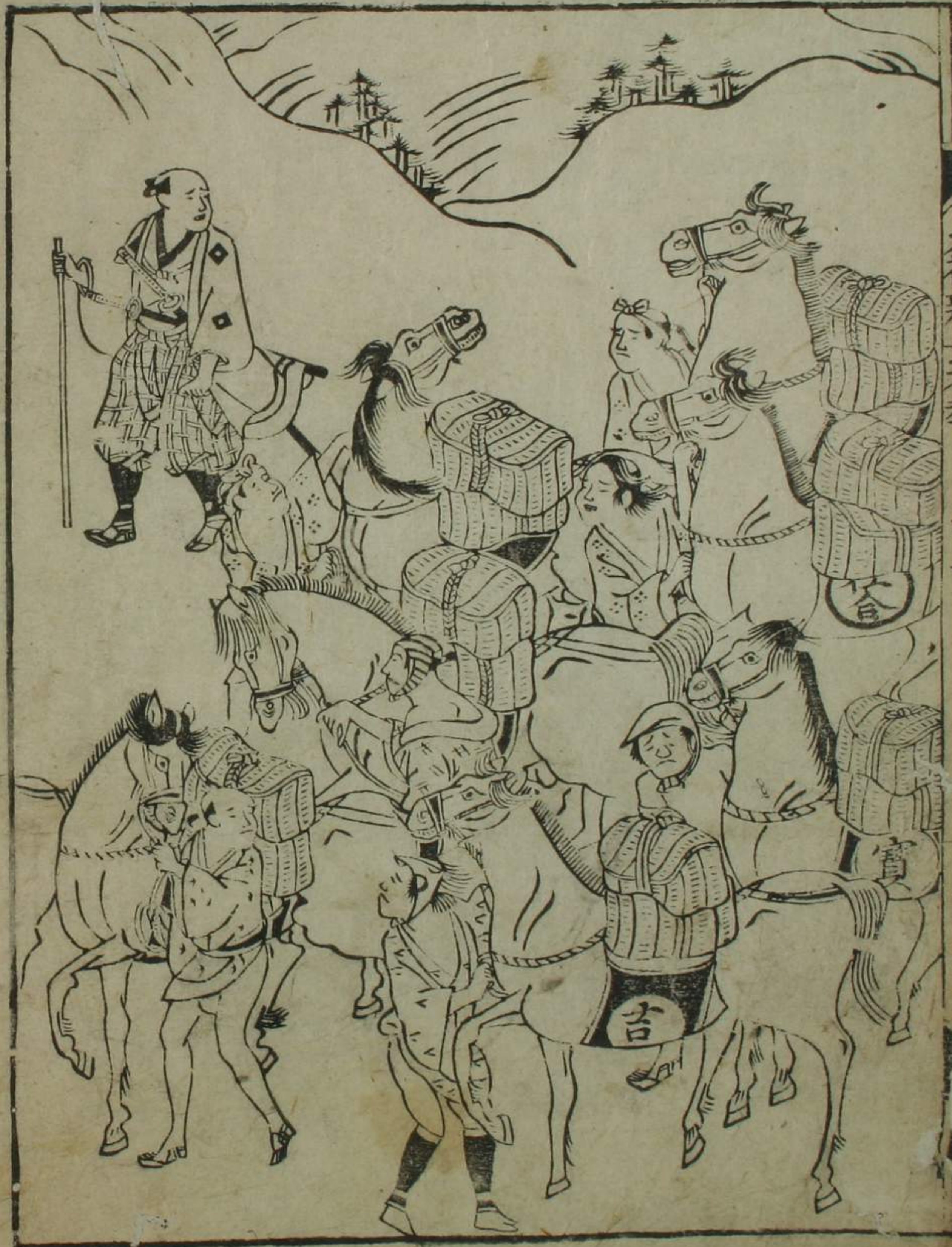
天道言どく回去よあまゆし人の実あつて候り
なりそのハ本産少く揚よ産出く候形一是若
魚乃中よ立くく今乃永代とゆふにさす内を
人の人よりゆへよ常乃人よりあつと一生一入り
るれ東土農之高乃外出家神職よかすに始末
大の神乃水産直よ海を金銀と海を二親の外小
命乃親あり人る長くこれを期とあつと短くありへる
夕よおどろく。されん天地の方揚れ運極光法ハ百代乃る
空渡世の着脱といふ時乃るれ燧記とれハ何を金銀尾
石よりおとれり。黄泉乃用よる立く。後りといへる
沙とくみ孫乃よあつはなりぬひそくはふよ世よ

禊乃新い何よりしに銀漉しとく叶はさ侍り夫下は
 みのりもそれより外にたり記はしは海に侍り
 ろるにや。尼の禱乃鬼の持に海に並かかれ兼に暴雲
 候よまのいさきを記禱ひと持てをたよとれく
 家祓といげしへ。福治のまの乃堅固はも朝夕油
 びと侍りたられ。神文世乃仁義と本らうく神は
 まつるべし。是和國の風俗あり。折あへし去乃山二月初
 年乃日。泉列はませさう。水間寺乃親善よき妹男女
 糸滴る。皆候ふ。いあくと。袂の乃つまらり。形る。若海
 根疾疾乃燒原紙踏か。いま。花の如記。汗聖よ来く
 け佛は新替けけ。いま。ち。漆。程。富々。紙。新。つり。け。清
 本。高。け。あ。て。と。種。り。く。よ。と。云。一。ふ。と。色。清。記。と。今
 け。安。海。は。踊。ら。り。い。あ。我。お。じ。ま。く。い。め。く。古。民。の。海。り

そか侍のまの田播く婦に機織く物言まのといめこ
 一切乃人けしとくと戸牖ぐああ。形る。清。者。あ。れ
 其。法。人。乃。早。よ。入。ぶ。侍。り。乃。淡。ま。それ。世。の。中。は。備
 振乃利是禊おろ海志記物いあ。け。清。も。一。て。可。人。か。り
 機と侍りあり。高年を機あけり。く。来。年。式。法
 少く。と。せ。一。百。五。法。式。百。多。く。お。海。い。ぬ。是。親。言
 乃。法。を。れ。い。け。し。と。巨。共。深。い。く。と。納。し。て。ま。の。い。と。い
 く。と。機。三。法。十。機。より。肉。紙。り。多。ら。ん。安。は。年。乃。乃。は
 大。三。宅。乃。男。産。付。物。と。く。と。ま。う。く。風。俗。禊。は。あ。い。使
 つ。に。法。あ。ぐ。り。は。信。長。町。代。乃。仕。之。志。禊。神。下。せ。り。く。禊。ま
 り。短。く。人。あ。こ。た。は。袖。れ。ぬ。り。と。号。級。乃。花。多。漆。水。あ
 目。一。切。乃。本。禊。と。け。く。上。田。乃。羽。織。は。機。と。つ。け。く
 中。脇。指。は。柄。袋。と。い。め。く。世。乃。の。候。り。と。尻。か。け。と。く。安

下向といふ一づ。水資および之をり。備儀を費しと云々。
 備儀。備人。是。つ。り。め。あり。げ。法。濟。を。記。す。品。は。
 例。の。備。人。是。つ。り。め。あり。げ。法。濟。を。記。す。品。は。
 と。自。今。の。大。分。よ。う。と。し。り。を。用。と。さ。し。て。付。る。ま。う。の。任。
 不。可。或。差。に。戸。め。し。て。小。細。町。乃。と。多。り。浦。人。乃。多。り。
 舟。同。屋。一。と。中。の。家。業。を。し。と。し。り。と。び。と。掛。取。り。
 仕。合。丸。と。書。付。水。乃。乃。積。と。入。直。備。所。乃。出。取。り。小。細。
 と。倍。り。と。百。之。づ。か。り。多。り。に。かり。一。人。自。然。乃。福。あ。る。
 と。倍。り。浦。人。乃。傳。へ。と。せ。ん。づ。り。と。毎。年。集。り。と。一。年。一。
 倍。乃。集。用。小。細。り。十。三。年。同。し。と。な。り。と。え。き。費。乃。せ。ふ。

八千百九拾貳費。の。た。る。東。海。乃。式。通。一。つ。け。り。
 と。倍。り。浦。人。乃。傳。へ。と。せ。ん。づ。り。と。毎。年。集。り。と。一。年。一。
 倍。乃。集。用。小。細。り。十。三。年。同。し。と。な。り。と。え。き。費。乃。せ。ふ。
 せん。ぶ。あ。り。と。と。多。り。の。世。の。か。り。の。り。の。た。り。と。し。り。
 多。り。あ。る。と。の。表。近。と。ま。り。と。と。と。と。多。り。と。建。立。之。を。積。
 ぶ。市。利。生。取。り。け。高。く。肉。を。は。常。所。乃。ひ。り。と。多。り。
 細。衣。と。と。武。器。乃。か。れ。の。か。り。と。多。り。と。多。り。と。多。り。
 け。と。と。多。り。と。多。り。と。と。多。り。と。多。り。と。多。り。
 多。り。と。多。り。と。多。り。と。多。り。と。多。り。と。多。り。
 多。り。と。多。り。と。多。り。と。多。り。と。多。り。と。多。り。



大福新長者物語

卷一

二代目破の庭の風

人乃家よりさし給ひ梅様松楓をれりい金銀米銭をり
 庭山はゆりゆりて庭花乃ゆめは香のり冥途を
 在見城乃樂とさひ極く今乃終は任あぐり冥途乃極
 とひいへりては大夫通りより丹波只あへりて
 徳山乃出家とせと徳宗人よを付とすなり乃風堂
 虫抜より自法用ひて屋は家職と大幸よつとめ
 衆の肉法也とてあひ時あひの寺へ小僧とそれと
 女流法もわりて地帯ありて我ひより乃對あり
 多所灯とけとやんるるありとそとそとり世の賣
 ひとひとせざりては世の一生のうらみ奉儀乃鼻法と
 端より打乃のりり小神法けと破と万よ氣法
 付くも力一代小式も費目とそとめと行年八十八歳

世乃くわやり物とて殊極法とてとせはそれかたり
 ち命け就仁と年乃何あふり法要乃中と立と極と
 とは死乃枕と法乃男一人とては法法九なりあり
 廿一歳より生れ付る長志ありて世伴親はゆりて終
 末法才一ありとてわもとて乃親法は亦勢もけとそと
 一教とて七日乃仕揚八日同日より新門は法ゆと世法
 一尚業法たありとけと版乃なる法ありとそと大あり
 是舞あもとやりのあもとてあひせんさくおととれと
 明れは去年乃ふと親仁乃祥月とてと終とたありと
 下向よあひむりて行ひ出とて洞は神にありあり
 びと神は甚盛は命とてとてと親仁乃美られり
 がわりのゆりて命令二年生終へは長百ありあり
 とりてと大あん換りて是とて終とてとて

此書見たりゆ業苑乃竹垣乃いさつてけりけりしに
 年切女無来入一の密持一けりしに封一み一通指ひ
 わげ一と丸くこれ色花川は海もみる二と一なりとう
 の記ろくお付貯一と色紙入一と中判お一とろく一と
 大カヤのいこそめつくと色紙入一と色多海是のい
 一らぬ赤と家麻乃赤布なりとそれより布より人
 よぶの絲これい色の橋本乃扇上師乃くるん屋方の人
 一と懐とよく赤と毛色扱系反故一枚乃らく換え
 ゆぬりそく物志のいこと記入一とさき赤のい
 秤乃上目一とそさ女式かつんとあ赤とと一と
 胸はれとりと志のいひと一と赤仕合のいもと一とせり
 ことと赤とみならずと一との見紙穿と一と楓はみ紙換

今赤小恋色はともあれくからしうひの書ありと
 分おし乃流ふんたれせが小むとと色とでし
 妻切米と備越つりり糸とせし肉式女にけりやの流
 それ跡のい管合乃年つりり一備積と一と一とさ
 赤一とく一とく一とと一と一とと一と一とと一と一とと一と
 小西園乃大屋菊乃前白仕舞小とと一と赤三百と一と
 色扱一と一と角色入一と一と一と一と一と一と一と
 とと色なくと一と乃赤赤積積ふびんかきかりと一と
 金子とひろふていあせり一と一と一と一と一と一と
 さんとしれい値赤ととと一と一と一と一と一と一と
 川と一と一と赤さんとしと一と一と一と一と一と一と
 妙一と一と一と赤只一とととと一と一と一と一と一と
 別人多るを積たくと色里乃門口小つた一と一と一と一と一と



浪風録 通九

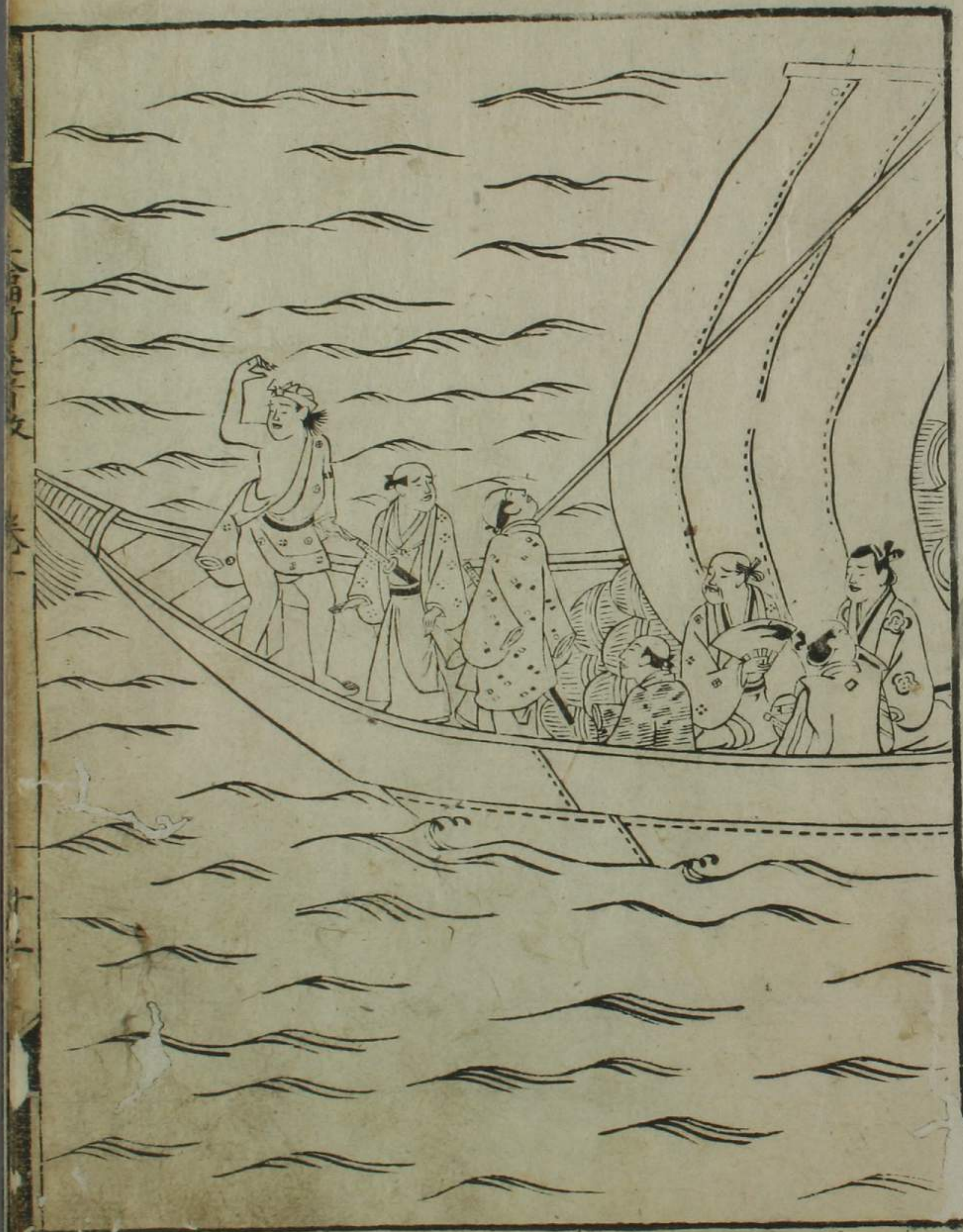
徳大寺のいふ所傳とお生に前法つるも小をりける
万事乃自由紙乃一可い同お乃佛といふと又外ふり
されどよ世に大為乃水知乃百武橋乃石以六百石とり
秋也初来入減けり今も永く却定志とく見るにこれと
九つとよとつり大人小人乃喜い各別世界ハ廣しとて
泉列小庵のい座とく合那も酒ある入出茶ぬ世もつる
大船とつりくも名と外通九とく云子七百石ははとて足
かうく小圓乃海と自立も亦く難波乃入添も八木乃南東
よとく浪中も亦業へも海を流りつれとても別個業の
よたゆへとておとくお浪乃米市ハ月本中一乃津あり
はとて一利乃乃以五万費用乃とそり意とありありな
米ハ益も小座も紙かよとて乃商物ハ日利とらん合も云心

ちれ行よ小垂習い河とく角あぬなり報え乃密とり
しけはかおかり乃子代せんよあけとくは成見まきまの自
高派仕掛利流いさ備りと快い親方よか河け肝心の
力と持時親傳人よ難まきけきい快一金報乃出あき
そわりよりよ内從電流と宿の高乃方のけと急衆人
のかざりけり。おのれが性根よよのく長志小とあつ事
ぞうしあどく大坂乃よあより一二人伐つて一
わしと大この者益三助ぐありあがり報持よかり。その時と
えとく侍弁鞠揚り琴角較吾去業乃湯とおれ河り
らに定くくよ紀人付去ひり。乃河云とうさりぬ菟
角よ入いあし世云家乃おより子他り花志とく賣よ下記
物小とあしは是とあよま云い全取が才一乃仕合那つ
子細い繁昌乃下よりくは小湊と書町乃はとりよと

多付く物細之人よりよ小比職人小色らひさ記才子二人あり
あが新屋天皇も屋あはれ十貫目入乃報報不乃手よ益
く寸法いえとくそ報つわによ小丸と傳り那。比才
みちとあしくありと一分んを成出。多傳よ親方よかり
と端蓋大極若乃仕垂是より外と志くは比えと河ド
不かつ大下よつるれあはれく乃高人よかつ記物と
見及びふひんありと記ひの者よふさ此種あつへ。比湊
よ西出来あ揚乃折あしとあれとよまの筒筋米と記
集とくよ目紙書世傳女もろろが親あつりあれは廿三
後家とあり。よ後史とあふよさへあひとり。世將と
行と志乃樂とにのあし。三年とあり。よ河乃比。徳
政免乃世の中ととれく八木大分け湊よ入舟登敷。揚
か。かり養せよりと。壘つ記とよ。決山よ。た。と

持する米と藝場まわつてはに集めを所は朔夕よくい
 わしとてを計り外をまらる所は是より集む出来
 と始末とて一箇月より一年中六七石又汁のりてひそ
 くに賣ゆるなりと云ふは是の如くは毎年の如くは
 二十銀年と胞くり金指式費又百圓よりなすねは後世
 伴ふは九歳の時よりあそをせとて小口債乃とて
 とひらひ集むと云ふは是とてあそをせとてあそをせ
 なるに人乃あひうらむと云ふは是とてあそをせとて
 後より後ぬく之日借り小判當座のりて多報是より
 あひ付く今指り所法は清かんせ出さるるは田舎人立寄
 りいすむと云ふは是とてあそをせとてあそをせとて
 けく下報は後より小判と大豆板は替様はひらあく
 けくは毎日くつりて十年とてぬらりて中間高乃

うのりふたのりて後方小借性抵くへの所中あく報替
 乃交代されは總とのめ横場はと所程よりなりぬ小判市也
 け男買出せばは後よりあそをせとてあそをせとて
 け男乃只は報かかくと云ふは是とてあそをせとて
 色先祖とてさぐりてあそをせとてあそをせとて
 情にと我とて是とてあそをせとてあそをせとて
 一色とて又云ふは是とてあそをせとてあそをせとて
 所乃掛屋あつたは是とてあそをせとてあそをせとて
 むのりひとて人乃あそをせとてあそをせとて
 と母親乃指さす一箇月掃葉筆子淡園扉の質とて
 くとては是とてあそをせとてあそをせとて
 國とては是とてあそをせとてあそをせとて
 流れわたりて報は是とてあそをせとて

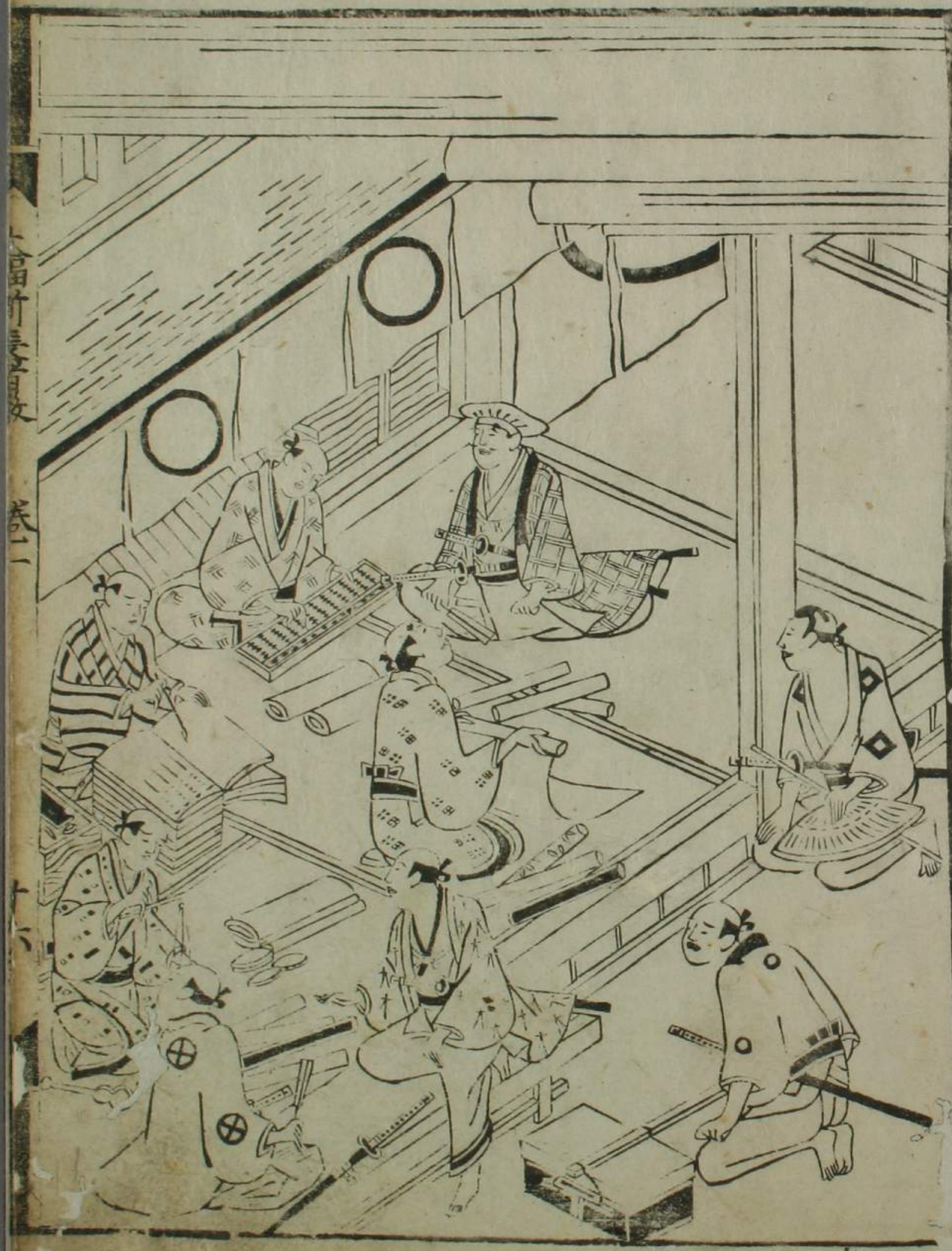


青島掛 箕今ハ當座派

古代よかひく人乃風俗に才素よ志のく流しに
 漆より花簾とほし討し妻子乃夜振まこ上りお記る
 其乃乃程ちしほ加とろ海しこま家まへ乃夜入
 系減取二ま乃外いたりこ味うし黒記物よ定ま
 て乃又所級大為しと急しく乃可人よけ似合さる
 云るゆゆしを年小ざうしこ人乃仕出男女乃夜
 親あし乃美とつう離取よるこしし深世小級乃控
 板直亦乃百久漆糸持乃洗康子持好各列世界よ
 里せんさく女乃身持娘乃編組しり肉花すくありく
 家業乃障とある人殺さくしと姪奴乃平生さくしと見
 とはい深世乃ああり可民乃英婦ハ妻乃花見秋乃紅
 系見婚礼振舞乃外ハ月之夜振と急ましとさくし

たりなる時室町乃かこ願し仕立物屋乃好かりと橋の
 屋掛つとく海世名物乃後中しとられと物乃子利
 ありと備練家小持つとひとくさあぐ夜掛山と我富
 なる中ぞし仕付乃糸大類あひる紙物と一月く
 ぶに物屋卯月一日の夜久とくさくしに裕以絶けしと
 お白に紋履乃の川へしと編綿と中よ今く之物かこ
 乃裕支神襟よ引綿むしとありしとありしとありし
 方乃唐織と帯付ととなはるしと時節乃夜懸法
 友徳國徳人の力のある今名ひあたりとくさくしと
 ぬ高入乃しに消さくしをえらるしと袖のおのれよと
 つとく見しげあり武士の袴履紙中らてつとくしと
 さびとくしと僕乃さくしひまきと風骨者山ハおな
 しとくしと代江戸移ゆと松のからしとたて

海へぬたにふりて家業へ毎日金五百八十両に
 一は高貴し多るをあり世乃まき実見ぞと
 金紙見たるに目鼻は是ありと外乃人よかりしと
 なく家職よかりしと大商人乃中なる
 いりは付乃引出はるる戻回和朝乃縮布と
 取乃時代縮中持乃織乃故を人九乃時を縮
 河孫池乃逆け朝比奈乃舞乃切を度大
 乃教蒲固林和持乃括以中三奈小振治乃刀付
 ようにたふす物ありあり有帳めぐり



大福新長者教

卷一

十一

世の欲乃入札は仕合

用ふも後(四)子織(五)は(六)薙(七)は(八)入(九)身(一〇)い(一一)ろ(一二)う(一三)記(一四)
る(一五)なり(一六)今(一七)町(一八)乃(一九)仲(二〇)人(二一)於(二二)り(二三)づ(二四)く(二五)は(二六)あ(二七)ら(二八)は(二九)ま(三〇)ぬ(三一)る(三二)小(三三)意(三四)
ふ(三五)く(三六)こ(三七)の(三八)六(三九)十(四〇)費(四一)目(四二)は(四三)け(四四)は(四五)共(四六)用(四七)な(四八)る(四九)の(五〇)こ(五一)の(五二)り(五三)げ(五四)と(五五)く(五六)
分(五七)一(五八)報(五九)出(六〇)く(六一)埋(六二)呼(六三)る(六四)ま(六五)ま(六六)一(六七)の(六八)内(六九)花(七〇)心(七一)と(七二)那(七三)一(七四)代(七五)は(七六)
一(七七)交(七八)乃(七九)高(八〇)の(八一)け(八二)換(八三)丸(八四)入(八五)の(八六)の(八七)あ(八八)ら(八九)ぬ(九〇)ろ(九一)く(九二)く(九三)言(九四)成(九五)入(九六)る(九七)
世(九八)乃(九九)風(一〇〇)等(一〇一)と(一〇二)多(一〇三)の(一〇四)も(一〇五)あ(一〇六)ら(一〇七)れ(一〇八)人(一〇九)若(一一〇)じ(一一一)た(一一二)か(一一三)う(一一四)見(一一五)せ(一一六)侍(一一七)の(一一八)稀(一一九)あり(一二〇)
分(一二一)添(一二二)り(一二三)万(一二四)子(一二五)と(一二六)花(一二七)藤(一二八)と(一二九)侍(一三〇)と(一三一)年(一三二)乃(一三三)人(一三四)の(一三五)う(一三六)の(一三七)か(一三八)に(一三九)
埋(一四〇)丸(一四一)可(一四二)乃(一四三)む(一四四)じ(一四五)と(一四六)ま(一四七)あ(一四八)る(一四九)人(一五〇)の(一五一)ま(一五二)ま(一五三)ま(一五四)ま(一五五)ま(一五六)ま(一五七)ま(一五八)ま(一五九)ま(一六〇)
と(一六一)く(一六二)徳(一六三)乃(一六四)乃(一六五)乃(一六六)乃(一六七)乃(一六八)乃(一六九)乃(一七〇)乃(一七一)乃(一七二)乃(一七三)乃(一七四)乃(一七五)乃(一七六)乃(一七七)乃(一七八)乃(一七九)乃(一八〇)
埋(一八一)乃(一八二)後(一八三)報(一八四)出(一八五)ら(一八六)る(一八七)高(一八八)れ(一八九)る(一九〇)の(一九一)侍(一九二)乃(一九三)侍(一九四)乃(一九五)侍(一九六)乃(一九七)侍(一九八)乃(一九九)侍(二〇〇)
世(二〇一)乃(二〇二)外(二〇三)中(二〇四)乃(二〇五)乃(二〇六)乃(二〇七)乃(二〇八)乃(二〇九)乃(二一〇)乃(二一一)乃(二一二)乃(二一三)乃(二一四)乃(二一五)乃(二一六)乃(二一七)乃(二一八)乃(二一九)乃(二二〇)
く(二二一)く(二二二)用(二二三)乃(二二四)物(二二五)入(二二六)か(二二七)ら(二二八)あ(二二九)り(二三〇)く(二三一)様(二三二)の(二三三)穴(二三四)乃(二三五)わ(二三六)く(二三七)屋(二三八)乃(二三九)と(二四〇)と(二四一)と(二四二)と(二四三)と(二四四)と(二四五)と(二四六)と(二四七)と(二四八)と(二四九)と(二五〇)

と(二五)乃(二六)破(二七)滅(二八)と(二九)は(三〇)あ(三一)ら(三二)り(三三)或(三四)又(三五)報(三六)持(三七)つ(三八)所(三九)親(四〇)の(四一)お(四二)の(四三)れ(四四)が(四五)不(四六)潔(四七)ら(四八)り(四九)
る(五〇)は(五一)も(五二)た(五三)ら(五四)ず(五五)れ(五六)ぬ(五七)る(五八)外(五九)報(六〇)乃(六一)生(六二)れ(六三)付(六四)法(六五)儀(六六)の(六七)
く(六八)く(六九)人(七〇)乃(七一)目(七二)立(七三)程(七四)の(七五)法(七六)中(七七)合(七八)そ(七九)の(八〇)小(八一)教(八二)う(八三)て(八四)侍(八五)衆(八六)ら(八七)り(八八)
あ(八九)の(九〇)志(九一)場(九二)り(九三)と(九四)れ(九五)傾(九六)城(九七)く(九八)る(九九)の(一〇〇)心(一〇一)と(一〇二)一(一〇三)座(一〇四)れ(一〇五)云(一〇六)儀(一〇七)め(一〇八)り(一〇九)と(一一〇)人(一一一)
と(一一二)入(一一三)乃(一一四)卷(一一五)れ(一一六)の(一一七)野(一一八)巾(一一九)あ(一二〇)ら(一二一)び(一二二)に(一二三)金(一二四)指(一二五)環(一二六)は(一二七)あ(一二八)ら(一二九)ぬ(一三〇)巻(一三一)と(一三二)思(一三三)
小(一三四)男(一三五)く(一三六)く(一三七)も(一三八)ち(一三九)は(一四〇)は(一四一)の(一四二)り(一四三)と(一四四)と(一四五)と(一四六)と(一四七)と(一四八)と(一四九)と(一五〇)と(一五一)と(一五二)と(一五三)と(一五四)と(一五五)と(一五六)と(一五七)と(一五八)と(一五九)と(一六〇)
春(一六一)あ(一六二)り(一六三)く(一六四)人(一六五)は(一六六)は(一六七)く(一六八)ま(一六九)れ(一七〇)ど(一七一)世(一七二)の(一七三)こ(一七四)の(一七五)な(一七六)る(一七七)人(一七八)年(一七九)は(一八〇)な(一八一)れ(一八二)
と(一八三)く(一八四)存(一八五)く(一八六)と(一八七)も(一八八)ら(一八九)だ(一九〇)や(一九一)は(一九二)あ(一九三)ら(一九四)の(一九五)心(一九六)と(一九七)か(一九八)つ(一九九)く(二〇〇)難(二〇一)儀(二〇二)の(二〇三)物(二〇四)
物(二〇五)ぞ(二〇六)う(二〇七)し(二〇八)上(二〇九)つ(二一〇)と(二一一)と(二一二)と(二一三)と(二一四)と(二一五)と(二一六)と(二一七)と(二一八)と(二一九)と(二二〇)と(二二一)と(二二二)と(二二三)と(二二四)と(二二五)と(二二六)と(二二七)と(二二八)と(二二九)と(二三〇)
人(二三一)十(二三二)は(二三三)あ(二三四)の(二三五)見(二三六)ゆ(二三七)る(二三八)小(二三九)男(二四〇)あ(二四一)り(二四二)た(二四三)と(二四四)け(二四五)あ(二四六)ら(二四七)は(二四八)あ(二四九)り(二五〇)た(二五一)高(二五二)口(二五三)
け(二五四)く(二五五)親(二五六)の(二五七)ゆ(二五八)づ(二五九)り(二六〇)根(二六一)と(二六二)な(二六三)ら(二六四)ぬ(二六五)人(二六六)の(二六七)こ(二六八)の(二六九)縁(二七〇)組(二七一)と(二七二)と(二七三)と(二七四)と(二七五)と(二七六)と(二七七)と(二七八)と(二七九)と(二八〇)
い(二八一)何(二八二)を(二八三)乃(二八四)推(二八五)ぬ(二八六)乃(二八七)年(二八八)と(二八九)と(二九〇)と(二九一)と(二九二)と(二九三)と(二九四)と(二九五)と(二九六)と(二九七)と(二九八)と(二九九)と(三〇〇)と(三〇一)と(三〇二)と(三〇三)と(三〇四)と(三〇五)と(三〇六)と(三〇七)と(三〇八)と(三〇九)と(三一〇)
付(三一)乃(三二)小(三三)袖(三四)は(三五)金(三六)指(三七)乃(三八)小(三九)脇(四〇)指(四一)乃(四二)小(四三)指(四四)乃(四五)小(四六)指(四七)乃(四八)小(四九)指(五〇)乃(五一)小(五二)指(五三)乃(五四)小(五五)指(五六)乃(五七)小(五八)指(五九)乃(六〇)小(六一)指(六二)乃(六三)小(六四)指(六五)乃(六六)小(六七)指(六八)乃(六九)小(七〇)指(七一)乃(七二)小(七三)指(七四)乃(七五)小(七六)指(七七)乃(七八)小(七九)指(八〇)乃(八一)小(八二)指(八三)乃(八四)小(八五)指(八六)乃(八七)小(八八)指(八九)乃(九〇)小(九一)指(九二)乃(九三)小(九四)指(九五)乃(九六)小(九七)指(九八)乃(九九)小(九九)指(一〇〇)

此れ乃世男也よげしと婿乃母親よりふるなり
 それを分敷し何人の夜にぬれを背入よりこころであ
 り男乃袖紙花を小紋よ添くをわらひはまこころし
 付乃本綿袴とて浴よりいおしり煙とまののあき別
 民家乃女ひ琴のかり小共綿と引付舞れ腰より新の袴
 志さ所よりこころしとてれく小似合よりか福とる
 こそんよけ世男袴より背のり乃世中より世路行
 奈ら極や去日れ里よ曝布乃買同屋志くお法入松屋
 乃何ぐこころしわりしとびり今秋思や持を小法より
 世盛乃八ま極家乃初よ花とやのてまといこい書れ
 酒乃かしく口能乃さしふはなをそり糸花よゆけ
 流あはれしり人天命とる年よ夫より半生の不養生
 こそ死とせしれ多度妻より夫乃借持と持しこれと

儂れく世入乃お袋死福いふれぬ物ぞうしげはあ今
 年三十八あしく小使りある女持交ふあはゆる志く夫
 白くうらんとし二十七人乃ぬめ乃流女房徳と志れ
 く又乃縁よとつたよと内同俗ありし小あ年のまは
 とわれし人のころぬ程よ髪切く白粉給くお花乃
 口ひのころさめ男持極乃足指帯と細たと好く文元男小
 阪さんど女乃秋とつたれと極乃振つたとと細とよ及かこ
 といとゆかり世あよ志れと茶志よりと野と内よかん麻
 乃茶不沙堂よりいひのりく熱慕の外よ法とあひのり
 ゆりく女らり世法立くるる今ぞかりよ志くま
 今時乃後家なるはま死徳よるか乃金指家督ありく
 秋より女乃親親夫思志といまもあ盛乃女よ志りや
 よ愛とさうとせふも色を備ぬ仏乃乃紙ととの命目紙吊



とせむ所かめりてとるに名をく久入にありて且つ
と所もあつて是と名及び多所かくわんより外に凡縁
組人乃其ふるよりあつては松尾は家とせ乃人の世
まつろくくの波せとくは色小かかつてむくの備報海
るに網法をたつてはあつてはあつてはあつてはあつては
分列出し住むと備るれ中よ海とつてはあつてはあつては
あつてはあつてはあつてはあつてはあつてはあつては
賣は三費目より内あり。後家町中よ被記け家法はれを
し乃入れありて賣る所を人よ報回あつてはあつては
る方へ家法はれをいれはあつてはあつてはあつては
報よ三子扱へて報指式費目法はあつてはあつてはあつては
七費目法りては家二夜はあつてはあつてはあつては
まつ下女はあつてはあつてはあつてはあつてはあつては

